



## 【聖書が教える健康な自画像】

説教者：鄭南哲牧師 (Rev. Jung nam-chul)

本日聖書本文：出エジプト記3章10-17節・4章10-15節/今週暗唱聖句：エペソ人への手紙2章10節

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。冬らしく大分気温が下がり寒くなりました。これからコロナ禍の中でさらに体調崩されやすい時期に、是非みなさんのお体を大事にして頂きたいと願いつつ、今週から始まる今年最後の12月の年末にも、どうかみなさんのお体と家庭、お仕事が守られ、さらに祝福されますように心からお祈り致します！

### <1. 我らに優先に必要な健康な自画像(自我像)・自尊心の回復>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの神の家族のみなさん！我らは先週自分と違うのが間違いではないことを一緒に学びながら、4つのスタイル、タイプの違いについて学んでみました。自分と同じ人は一人もいない、ある人とスタイル、性格、タイプは似てても同じ人は一人いないことを教えられました。夫婦がいくら一体となっても、みなさんを通して生まれたご自身の子どもであっても、自分と同じではない違があることを理解し、認めることは他の人との関係が守られ、関係が回復されるまず第一歩であることでした。しかしながら、クリスチャンになっても、ある方は信じる前の自分とあんまり変わらず、いつも顔にあんまり表情もなく、人によく否定的、批判的な、攻撃的な方々がたまに見ます。いくら、先週見たいな人間関係に対する学びや知識を多く学んでも、続けて自分を他の人とよく比較しながら、人に対していつもネガティブな姿勢で、周りの雰囲気重く、暗くさせてしまうような方々もいます。その理由はなぜ何でしょうか。

本日は、お互いの違いを理解することよりも、もっと優先に大切なことがあることに聖書を通して一緒に学んでいきたいと願います。それは聖書が教えて下さっている通り、健全な、健康な自画像(自我像)を取り戻すことです。ここで、「自画像」という言葉の意味は、ただ画家が自分で自分の顔を描いた絵(portray)だけの意味ではなく、「自我像(self-portrait)」つまり、自分自身について他の人々が自分をどう見てくれるのかではなく、自分自身が自分をどう見て描き、どう評価しているのかの事を意味する。自身の内面の世界と自分に対して持っている心を表すイメージと姿という意味：自分のアイデンティティ・自画像という言葉を英語で、「self-portrait」と言います。この言葉は、ラテン語「protrahere: 取り出す、発見する」から派生されました。それで、自我を意味する「self」+「portray」が合わせられ、「自分自身を発見するための絵」という意味でも使われ、本当の自分を見出すために、「自分自身をどう理解し、描いているのか」理解する言葉でも使われています。

我らは毎日、自分の自画像を描きながら、生きている生きていると思いますが、みなさんは、もし今、自分の状態を自画像で描くなら、どのような姿、表情の自分を描くと思いますか。もしかして、蔓延の笑顔の顔でしょうか。自身を持っている堂々な自身でしょうか。それとも悲しんでうつになっている自分でしょうか。力が抜けたような疲れて頭を下げている自分の姿でしょうか。

有名な心理学者ゾ・ルフト(Joe Luft)・ハンリ・イングハム(Harry Ingham)「心の4つの窓(ゾハリの窓)」の理論では4つの自分の領域があると主張しています。自分と他の人みんな知っている公開の自分(Open Area)、他の人は知っているけど、自分は知らないけど、他の人たちは知っている自分の行動や習慣、癖などの盲目的自分(Blind Area)、他の人は知らないけど、自分は知っている隠されている自分(Hidden Area)、自分も他人も知らない未知の自分(Unknown Area)

	自分が知っている領域	自分が知らない領域
他の人が知っている領域	公開の領域 (Open Area)	盲目的領域 (Blind Area)
他の人が知らない領域	隠蔽の領域 (Hidden Area)	未知の領域 (Unknown Area)

名作『罪と罰』など、19世紀後半のロシア小説を代表するクリスチャンの文豪(ぶんごう)であったフョードル・ドストエフスキー(Fyodor.M.Dostoevskii)は、人の心についてこう残した言葉があります。

「人は友達以外他だれにも話さない思い出を持っている。また、人は友達にさえ話せない自分だけに言える違う問題も心の中にひそかに持っている。しかし、人は自分にさえも取り出し話すのが難しいことをも心の中に持っているのだから、普通の人だれでも、心の中で隠しておき、絶対取り出したくないことは数えきれないほど実はいっぱい持っているのだ。」指摘しました。つまり、人生の中で、自分について自分も分からない自分、自分についてどうすれば良いのか自分も知らない自分、どちらが本当の自分なのか、これから自分は本当に何をしたいのか混乱してしまう自分を体験したことを実はよくあったのではありませんか。今、皆さんは自分の姿の絵を描くとすればどう描きますか。(来週我らに与えられている神様からの賜物を学び前にまず、自分自身のことについて今日は一緒に学び、提供していきましょう。)

創世記1章27節から読んで見ますと、神は人をどう造られ、何のために造られたのか、人はどのような存在であるか明らかに書かれ教えて下さっています。「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「産めよ。増えよ。地に道よ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這(は)うすべての生き物を支配せよ。」そして、31 節に「神は非常に良かった。」つまり、その人を造られた神の目ではどんな被造物よりも、非常に良く、素晴らしい存在として神は祝福され、喜んで下さったのが本来の人の存在でした。しかし、後で、創世記2章から読んで見ますと、結局罪により、人は本来の自分の自画像が歪曲され、本来の夫婦姿からも変質されていたことが分かります。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの大切な信仰の家族みなさん！神を信じること、イエスキリストを受け入れ信じるということは、神様によって造られた本来の姿に立ち返る、神に創造された本来の自分を取り戻すことだと言い換えることが出来るでしょう！

神様は我らと出会い、神との親密な関係を回復させ、本来の自分に取り戻らせ、本来通り神に祝福され、神のみわざとご栄光を表す為に用いて下さるお方であります。

聖書を通して、神様は一人一人との関係の中で彼らを用いる前に必ず回復させて下さる事があります。解決しなければならない問題があります。それは自画像(self-portrait)・自尊心(self-esteem)というものであります。

\* 自画像(self-portrait)・自尊心(self-esteem): 神と自分との関係、自分との関係、他の人との関係においてもっとも影響を及ぼします。

\* 特に、健全な自画像を保つためには、必ず、自尊心(self-esteem)の回復と劣等感の癒しと克服がとても大切です: 自尊心は分かりやすく説明すると、「You are who you think you are;」つまり、「自分がだれだと思うかが自分である」ので、自分はだれだと思っているのか！かかっています。\* 自尊心(self-esteem)とプライド(Pride)と違う点は:

\* 自尊心: (self-esteem: 自己尊重感) 自分のありのままを尊重し、受け入れる態度(自分はありのままでも十分愛される価値があり、大切な存在である)自分を愛し、大切にす、尊重する心。

\* プライド: 他の人が自分をどう思っているか、見ているか、他の人に認められ、尊重されたい心。

プライドが高い人は、ほかの人は自分をどう考え、思っているか、見ているかが重要なので、いつも他の人を意識してしまい、それに自分が左右されやすいです。そこで、他の人から聞いた言葉、経験された出来事、態度が自分に影響され、自分を姿を作ってしまう。結局、周り関係なく、自分のありのままの自分を認め、評価し、大切にす自尊心が低くなってしまい、そこで自分の中で、曲がった姿の自画像が描かれ、生じる物が、劣等感というものであります!!!

\* 劣等感(inferiority feeling): 自分を絶えず他人と比較し、自分は足りない、出来ないと思ふ感情

\* 劣等感の4つの特徴: ①他人と絶えず比べる・②自己喪失・自己否定(演技)③自己無力(他人過大評価・自分過少評価)④過去に捕らわれている(現在を感じられず、前向きにならない)

<劣等感に陥りやすくさせる7ps> みなさんは、もし、こう言ったことについて劣等感を感じたことはないでしょうか。

(1) Perception; How I look: 外見・見た目 (2) Possession; How much I have: 所有 (3) Position; 地位 (4) Power: 能力 (5) Performance; How I do: 達成度 (6) Popularity 人気度 (7) P.H.D. 学歴

聖書の御言葉通りの本来の自分、健全な自画像を取り戻すために、向き合っ処理しなければならないことが実は自身の心にあるこの劣等感の問題であります！つまりこの意味は神様との愛の関係を保っている人たちがほかの人との関係の

中でも愛の実、御霊の実を豊かに結ばせる為に、まず自分自身の中にあるこの劣等感の問題を必ず癒し、回復させて下さると言う意味も含まれています。なぜなら、**劣等感から解放されず、大人になってもずっとこの自分の劣等感に捕らわれ、本来神様が我らを造られた健康な自画像を保って神様との親密な交わる関係を保つことに妨げ、そして、夫婦関係から始め、親子の家族関係にも、教会の中や会社においての全ての人間関係にも影響を及ぼすもの**だからです。

我々は自分の中よりも、すぐさまこの世とほかの人たちが問題だと指摘するか、判断する時が多くあります。

しかし**実は根本的な問題はこの世と他の人の問題ではなく自分が、自分の中にある心の世界、自分の視覚と姿勢が問題の場合が多くあります。私たち人は見える通りを見るのではなく、実は自分が見たいしだいばかりの側面を見ているのではありませんか。**時々私たちは客観だと言いますが、実際には自分の主観で世界を判断し、人々や物事を解釈しようとする傾向があります。そういうわけですから、結局ほかの人との関係の問題より、**自分との関係がまず重要**ではありませんか。まず自分自身に対してどう思い、考えているのか、自分をどのように見て接しているかなど自分の中で、自身との関係が他のさまざまな問題や他人との関係より、実はもっとも優先で大事だと信じます。

みなさんは、ご自身に対してどう評価していらっしゃいますか。みなさん自分の今の姿を自身で絵を描きましたら、いかがでしょうか。美しい自分でしょうか。格好いい自分でしょうか。元気で明るく笑顔の自分でしょうか。有名な作家だったヘミングウェイが書いた本の中である本にこう書かれている有名な文章があります。“**私に対する人々の評価は私が自分自身をどのように評価するのにかよるのだ**”と。この話しの意味は言い換えると、だれかのほかの人のせいで、自分の人生がこんなに不幸になったと思っている人に**そうじゃない！**ほかの人のせいではなく**あなた自分自身がもう自分の人生は不幸だ**と思い込んでいるから、その自身の考えによって不幸になっているのだと言う意味です。

今日は、特に話したいこの劣等感と言うものも結局、他の人からではなく自分の中から始まったものです。

皆さんにはこの劣等感はありませんか。私自身のことを振り替えて見ても自分自身を一番つらくさせたことがあれば間違いなくこの劣等感に捕らわれていた時でした。みなさんは他の人たちと比較しながら劣等感を感じていませんか。自分自身を否定的に考えてしまった事はありませんか。ですから劣等意識というのは他の人との関係から起こる問題ではなく、真の自分自身を見れないようにし、疎外感、否定的な自我像、無気力感を伴うためひどい憂鬱を感じたりもします。



## <2. 自分を失っていたモーセの内側の状態>

今日の御言葉の本文によると深刻に劣等意識に捕らわれていたある人が登場しています。神の人で、イスラエルの偉大な指導者だったモーセでした。イエス様が生まれる1446年前、モーセはエジプトの宮廷で40年間王子として、最高の身分と教育を受けた彼は全てを手に入れたまるで自分が神かのように、自分の同族を殺してしまい、荒野へ逃亡(とうぼう)したモーセは以前の宮殿での40年間とは全然違う荒野という環境の中での40年を過ごします。もちろん、モーセは四十年を荒野で過ごしながらいろいろ訓練され、整えられ強くなって来ましたが、神様が本格的にイスラエルの指導者として用いられる前に、荒野での40年を通してモーセは忘れ失われている自分について、神は無気力となり、自分を失って、自分が何のために生きているのか生きる目的を失ってしまったモーセをもう一度本来のモーセらしく取り戻すように働いて下さっているの内容は今日の本文の内容であります。

神様はモーセをイスラエル民族の指導者に立たせる前にこの心の病をいやして下さいとお方であることが分かります。神様はモーセを癒すためにモーセを呼び出し、モーセと向き合って会話を始めます。今日の本文で神様は4つの段階をとおしてモーセを回復させてくださっています。

### ①モーセの自己喪失の問題

**モーセは荒野まで逃げて来た40年間の生活の間、自分が何者なのかすら分からなくなってしまいました。今日の本文の3章11節を見てください。「私はいったい何者なのでしょう。ファラオのもとに行き、イスラエルの子らをエジプトから導き出さなければならぬとは。」**

人が作り上げたエジプトという帝国の真ん中で知らないうちに、自分が神かのようになれてしまった高慢さ、偶像崇拜の文化、物質崇拜、人間の弱肉強食(じゃくにきょうしよく)と知識崇拜など、身にしみついて来た世の価値観など全てを脱ぎ捨てられるように、荒野の中 40 年間砕かれ、整えさせられましたが、自分がだれなのか分からなくなった**自己喪失の問題**に直面していたのです。**自分はいったいだれなのか(Who am I)? 自分のアイデンティティの問題です。つまりもう自分が何のためにここで生かされているのか、自分の存在意味と価値が分からなくなったしまったという事です。**

今日多くの人々に抱えている自分の問題と悩みの中で、もしかすると、根の深いところでこのような問題でさまよっている人々が多くいるのではないかと思います。**自分がどうして生まれたのか分からない、何のために自分が生きているのか。今まで、とにかく、前向きにひたすら頑張っ、一生懸命走って、働いて来たが、振り返って見ると、自分はだれなのか、なぜこのように生きているのか分からず、むなしくさまよっている人々が多くいると思います。自分を失っている、自分の存在すべき意味が分からないため、つまり、人の自己喪失の問題の為、学生たちは脱線したり、自分や周りを虐待し、攻めたり、憂鬱、自殺など多くの人々がさまよいながら、もうそんな事分らんから、心の欲望のままに、この世の快樂で空しい自分を満たし、満足を得ようとして生きている人々がいるのではないのでしょうか。**

## ②モーセの自己否定の問題

神様がモーセにあなたがエジプトに行って、イスラエルの神の民を連れ出ささいと命じた時に、またモーセの反応はどうでしたか。“だれが私の言葉を信じるでしょうか。信じてくれるはずが絶対ないです！”と言う風に答えます。

**出エジプト記4章1節で「モーセが答えた。「ですが、彼らは私のいうことを信じず、私の声に耳を傾けないでしょう。むしろ、『主はあなたに現れなかった』と言うでしょう。」**

だれも自分のような大した者でもない自分に耳を傾け、信じてくれるはずがないではそうということです。エジプトで王子の身分の時は、その身分からもたらされる信念と自己主張、ちゃんとした自分の哲学と野望でモーセは自信満々だったモーセでしたが、荒野での40年が経った後、彼はまったく変わったものになりました。エジプトの宮殿から自分は捨てられた被害意識もあったかも知れません。王子の身分も、宮殿の背景も全て失ってしまい、荒野へ逃げて来てモーセは40年間を過ごしたので、**彼はまったく自分に対する自信を失っていることが分かります。今、自分は何も持ってないのに、エジプトですべての権力と力と富すべてを持っている王族や貴族の人々と比べて見ると、自分は何者でもないし、何にも出来ない者だと！だれも自分を信頼してくれないだろうし、自分も何でも出来ないとだと自己不信感がものすごく強かったでしょう。**

**少しでも人間的に比較し、計算して見ても、あんな巨大なエジプトの宮殿の王から始め、人たちが自分の話、自分の事にだれも関心も、興味もなく、注目してくれないだろうし、自分の話を真剣に聞いてくれる人はまったくいないだろうと、だれも自分を神から遣わされた者として、ふさわしく待遇し、信頼してくれないのは間違いなく一人もいないだろうと、ですから、神様に自分は資格がないから駄目ですとそう訴えていました。とても自尊心が低くなってしまい、自分はもう何者でもないから、一言でいうと自分は一切神様に用いられそうな存在でも、そういう資格もない者だと思い込んでいたことが分かります。**

愛する信仰の家族のみなさん！モーセのこの姿は神の前で決して身をへりくだらせ、謙遜になっている信仰の姿ではありません。自己不信が自分を用いて遣わそうとされる神様の選択と御力への不信仰な態度になっているのではありませんか。我らもモーセのようにイエスキリストを信じていても、すぐもっと自分より優れているように、よく出来そうな人と比べてしまい自分に対して自尊心がとても低く、自信がなく、モーセのように自分は神に用いられそうな資格も、そういう才能のある存在でもないから断りつつ、神の前で応答し、反応した時はありませんか。

**実はモーセの心の中には、エジプトの宮殿の人々からも、助けてあげようとしていた自分のイスラエルの民族からすらも自分の存在は断れ、捨てられたような過去の被害意識にまだ捕らわれ、そのような人々また会うことに恐れていたかも知れません。それで、そのように自分を傷つけた人々と再び会うことがとても負担になったから、自分は、エジプトに行っても何の役に立たない、失格な者だとすぐ自分を否定しながら、神の召しに続けて断っていたかも知れません。**

我々も、過去の人からの傷や痛みが続けて捕らわれていると、ずっと過去の自分にとどまってしまう、すでに強くなり、成長

し、変わって来ている自分に対する確信と自信も持たず、少しも新しい事や自分に負担になるような事が任され、頼まれるとすぐ身を引いてしまい、自分をネガティブにあれこれ何でも自分は出来ない者だからと否定してしまう時もあるかも知れません。しかし、それは決して、神の前で決して、謙遜ではありません。しかし、神様は引き続き自己否定と自己不信の問題と共に神様にまでまだ信じ切っていないモーセであっても、あきらめず、もうモーセを回復させ、用いようとしれおられる神様であることを今日の本文を通して学ばされます。

### ③モーセの自分を過小評価する事

出エジプト記4章10節をみてください。「モーセは主に言った。「ああ主よ。私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。」

みなさん！モーセは誰でしたか。当時最強国であったエジプトの宮殿で40年間小さい頃から、王子としての最高の教育を受けたエリートの中のエリートだったのではありませんか。だれよりも、エジプトの王子としての自分の意見や主張を通させ、貫ける話術(わじゅつ)を徹底的に学び、身についたので、実は、本当に口下手(くちべた)ではなく、口が達者(たっしゃ)だった人に間違いありません。モーセよりモーセをご存じだった神様だったのでモーセを神は選び、用いようとされたのではありませんか。

しかし、モーセは神の前で、“私は口が重く、舌が重いのです。”だと非常に自己卑下し、過小評価しながら、モーセは自分には神の御言葉に、御心に従えるまったくそういった能力がまったくないとつづけて神様に訴えてながら断っています。これも決して神の前で謙遜ではありません。

愛する信仰の家族のみなさん！我らもモーセのような姿はありませんか。人生においていつのまにか無気力に陥ってしまう時はありませんか。何か神様の為に、任されたり、頼まれてもやって見ようとか、祈りつつ真剣に考えず、一言も祈らず、すぐ「もう自分には絶対できない」、「もう自分は無理、自分はうまくできないから」と、もう決めつけてやろうとしない時はなかったでしょうか。そこには、自己卑下に考え込んでしまわせる深い劣等感というものは自分の自尊心の低くさせているから来るものであります。

そして、みなさん、我らはずっと神様に対して勘違いしていきません。神様のお働きは、決して、成功や結果を望んで私たちが用いようとされるお方は決してありません！神様は我らに望んでおられ、喜ばれるのは、「忠実さ」であります。

マタイの福音書25章でタラントの例え話のように、全ての主であられる神様は、しもべたちに預けたタラントで多くの利益を残すことを決して望まれなかったことが分かります。5タラント残したしもべも、2タラント残したしもべにも、主人の評価はまったく同じだったのではありませんか。「主人は、ここで5タラントと、2タラントのしもべをまったく同じく褒めて下さっています。21と23節。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたに多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

このほめ言葉は、どこか違う所があるでしょうか。ここで、どれくらいタラント(能力)を預かったかということは、そんなに大切なことではないということが分かるでしょう。自分に与えられたタラントをどれだけ忠実に用いたのかに対して神様は関心を持っておられます。5タラントもうかった人と、2タラントもうかった人には結果の差がありました。しかし、彼らは自分に与えられたものを忠実に用いたことでほめられた。

ですから、神の祝福は、結果や量を見て私たちに祝福するのではなく、自分に与えられたものをどのように忠実に用いたのかということを見られます。人間は悪いことをしても結果さえ良ければ良いと、それがまるで全てかのように思う時が多いでしょう。しかし、我らが信じている神様は決してそのようなお方ではありません。

神は、私たちが祝福するとき、私たちが自分に与えられたものに対して、どのような姿勢だったのか、どのようにそれを忠実に用いたのか、神様はその基準で我らを評価し、見られるお方であることを忘れないで下さい。

「管理者に要求されることは、忠実だと認められる事です。(Iコリント4:2)」



#### ④モーセの無力感の問題

モーセは自分に対する無力感によって神様の御前で自分に与えられている計画や使命に対して、彼は不従順しようとしてしました。出エジプト記4章13節をご覧ください。「ああ、わが主よ。どうかほかの人を遣わしてください。」と言います。ときどき私たちも神様からの計画や使命を期待より、それを無視して“わたしそんなことができますか。私のような無能な者よりもっとすぐれた人にやらせてください。”神様はいまモーセに信仰によって従うことを何度も命じていますが、自分自身をあまりにも否定的に取り扱うことによって、神様の命令に自分なりに不可能という結論を出しています。モーセは自分が神様を信じている神の民であり、神の子供である、神が自分と今も、これからも共におられる大切な事実を忘れていました。もし自分には不十分で、不可能であると思っても、自分より、神の全能の御力を絶対信じ頼っていたなら、そういう風な不信仰な状態と結論まで出せなかったでしょう。

よく自分の過去と、他の人々と比べながら、自分の存在価値と意味を失い、自分をネガティブに取られ、自分を愛さず評価せず、無気力、自己卑下に陥られているモーセの姿を現代語の一言葉で言えれば、劣等感だと言えるかも知れません。このような自分の中にある劣等感、こうした意識が神様との関係の中で、かなり邪魔している事が分かります。

神様は、モーセのように劣等感が深い人をそのまま用いるのではなく、必ず、その内側の問題を解決し、本来のモーセらしくモーセを癒し、回復させてから彼を用いて下さったことを聖書通して学ばされます。

劣等意識について研究している社会学者の話によると、知能つまり IQ が高い人こそ劣等感をもっと感じるそうです。特に IQ130 以上の人々は普通の人より劣等感をもっと感じるという統計があります。今日みなさんは劣等感を感じていますか。そしたら、知能がとつても高いかも知れません。そういうわけで劣等感がひどい人はいつも自分や他の人に対して否定的で、神様もよく疑ったり、自分を低くさせます。そうでなければ反対に見ただけは仮面をかぶって本当の自分じゃない自分を演技したり、誇張(こちょう)や偽装(ぎそう)したり、それとも依存症に捕らわれたりする場合があります。今まで取り上げたモーセの問題は結局、今日私たちの内面の中にもかかえている問題ではありませんか。神様の御前でもっと正直に自分をさぐってみると、だれでもこのような劣等感と自己アイデンティティを失い、自己不信と無力、自己卑下や自己憐憫に陥りやすく、自分らしさを失っていく問題で悩んでいる時が我らみんなあるのではありませんか。あんなすばらしい人物であったモーセさえ、自尊心を失い、劣等感にひどく陥ってしまったなら、我らの人生の中でも十分似てる経験をする時がよくあるかも知れませんよね。



#### <4. 劣等感から癒し健康な自画像に回復して下さる神様の方法 >

それでは、神様はモーセの内側を癒し回復されたなら、今日の我らの内側をも癒されるようにと願っておられます。今日も神の御前に出ている我らも自分の内側が本来神様が造られた健康な自画像をもつように回復しようと願っておられます。

##### ①神は本来の存在目的とありのままの存在価値をしっかり取り戻して下さる。

神様はみなさん各自身に今この世に存在させて下さる尊い目的と素晴らしい計画を持っておられる尊い存在であることを悟らせてくださいます。出エジプト記3章10節を見ると、神様は「今行け。わたしは、あなたをファラオのもとに遣わす。わたしの民、イスラエル人の子らをエジプトから導き出せ。」とモーセに言われました。

出エジプト記3章4節で「モーセ、モーセ！」なぜ、神様はモーセの名前を二度も呼びかけたのでしょうか。きっとモーセが40年の荒野での間、自分の名前の中でしみられていた神の導きと計画を、忘れてしまっているモーセの状態をご存知だったからです。神様は劣等感によって無気力になっているモーセに自分の名前を二度もはっきりと呼びかけながら、自分の名前通り今のありのままの自分の存在がけっして全てではなく、決して無意味な人生でも、失敗の人生ではないことを悟らせようとしておられました。

愛する信仰の家族のみなさん! モーセという名前の意味をご存知ですか。モ(MO)は「水」という意味で、セ(uses)は「引き出された」という意味です。彼の名前を水の中から引き出され、救われた者という意味でモーセだと名づけたのはそこに、神様の

深い摂理と計画がすでにその名に秘(ひ)められています。かならず、神はモーセを通して、水から引き出されて救われたモーセをいずれ葦の海の水を渡って神の民を救い出し、いのちと約束の地に導いて行く者として神の救いの計画を成し遂げるため、神のしもべとして用いようとする神様の御心があったのです。

40年荒野の生活の間、劣等感にとらわれて、何のために生きるべきなのか生きる理由も分からず、無気力で生きていたモーセに神様は二度もモーセの名前をはっきり呼びながら、決して君の存在は価値のないものではなく、神様に尊く用いられ、神の栄光を現すために、ユニックで特別な存在、尊い神の者である事を悟らせてくださいました。

今日も生きておられる神の御前で尊い存在である事を是非忘れてないで下さい。

\* 詩篇139篇13-14節「あなたこそ私の内臓を造り、母の胎の内で私を組み立てられた方です。14私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさせて恐ろしいほどです。(I praise you because I am fearfully and wonderfully made;) 私のおまじいは、それをよく知っています。」

\* エペソ人への手紙2章10節に、「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださいました。」

“私たちは神の作品であって、神によって造られた者たちであります!”

ですから、我らは商品のような存在では決してありません! ですから、比較する必要も、状態や機能によって価値が変わる者ではない事を忘れないで下さい。神によって造られた人にまるで商品みたいに、比べられるかのように、レベルをつけられるかのような世の価値観にだまされてはいけません!

私とみなさんはあるのままでこの世の中で70億分の一人しかいない特別な存在であって、決して偶然や過ちで生まれた存在では決してありません。神によって自分しか同じ存在がない独特で、尊い存在として造られたというのは、神様から神の御栄光を現すため、特別な計画と使命が与えられている存在たちです。ですから、ありのままで十分に存在価値があって比べられない傑作品の存在である事を一生忘れられないで下さい!

モーセも酷い劣等感に陥ってしまった原因もエジプトと荒野と絶えず比べなから、今の自分にさらに自己卑下と自己憐憫に陥られて何の自身も、存在意味も、生きる目的も失ってしまったかも知れません。いつも荒野でいながらも、以前自分のエジプトではやかで、贅沢な生活と荒野での生活を、エジプトでの自分がエジプトで王子として持っていた力と人気、外見など、過去の自分の立場と所有を絶えず振り向けながら、それと比べたら、今の見ずばらしくしか見えない荒野での生活や荒野では自分の姿、だれも自分に注目してくれない状況、何の力も立場なく、羊飼いでやせている自分の姿がさらに自信とやる気失い、本当の自分存在意味、自分を大事にする自尊心も全部失ってしまったかも知れません。神様がそんなモーセを神の器として用いる前に、まず、モーセの内側にあった劣等感や傷を克服させ、本来のモーセらしい自画像と自尊心を取り戻してくださったのです!



② 神は一人ぼっちにさせず、いつも共に行かれると約束される(同行信仰=インマヌエルの信仰)

今日の本文12節に「神は仰せられた。『わたしはあなたとともにいる。』」、4章12節には決してあなたを離れず、一緒に行き、あなたが何を言うべきか教えて下さると約束して下さっています。「12今、行け。わたしがあなたの口とともにあって、あなたの語るべきことを教える。』」

荒野で40年間ずっと寂しかったモーセ、肉体的にももう80歳になって無気力を感じ、もうこれ以上自分の生きる意味、存在価値を失っていたモーセに私があなたの神となり、あなたと共に言ってあなたを助け、あなたに力を与え、あなたを通してなさろうと全てを成し遂げると約束して下さっているのです。

今日みなさんも、決して人生の中で一人ぼっちなと思わないで下さい。今も生きておられる主がみなさんのそばで、みなさんのうちに共におられ、共に歩んで下さっていますから、決してみなさんがどんな状況であっても神は見放さず、変わらず、見捨てないで共におられることを信じて下さい。

ローマ人への手紙8章32節「私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子と  
いっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。」

今日も我らがすぐ諦めようとしても、どんなに劣等感に陥って、自尊心がとても低くも、神様の前で我らは相変わらず、神の  
子どもであり、変わらない尊い存在である真理と事実は変わりません。

今年、思わぬコロナ禍の一年の中で、神様の御手の中で我ら一人一人がここまで守られ、生かされているのは、決して偶  
然でも、たまたまでもありません！まだ神様はモーセのように、みなさんをお一人お一人を通してなさろうとする神様の美し  
い御業が、尊い使命がまだ残されているからであると信じます！

リビンストンという宣教師は、「神様から自分の使命を自覚し、忘れてない人はその使命が達成されるその時まで死なな  
い！」と言われた事はその通りだと信じます。



<祈りを通して神による回復と逆転の恵みを体験する12月となりますように！>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日神様はモーセに呼びかけて下さって、まるでモーセと  
顔と顔を合わせて彼を癒し、回復させて下さいました。実は、今日の我々も神様とそのような事が全然可能ではありません  
か。今日の本文でモーセが神様に向かい合った姿を一言で言えば、それがまさに祈りではないでしょうか。

以前、みなさんに伝えたように祈りは何でしょうか。祈ることは、神様と共にする時間です。神様と顔と顔を合わせ話し合う時  
であり、神様に向かい合う時であります。そして、今日モーセのように、ありのまま、正直に我らの全てのうちにある悩みと  
痛みを、劣等感を、弱気のありのまま、すべて神に吐き出し、さらけ出すことがまさに祈ることではありませんか。神様がそ  
のようなモーセをもう一度悟らせ、内側の人を強くし、奮い立たせ、立ち上がらせて、神から自分に与えられている人生の使  
命と責任に励み、全てを果たすことが出来るさせて下さった回復の恵みが祈りの祝福だと信じます！

神に心の内側が癒され回復されたモーセはその後、残りの40年間、多くの魂を救い出し、勇敢に戦い、神の民を約束され  
た地にまで導き偉大に用いられた逆転人生を送ることが出来ました。

今日モーセのように神様はわれらをも、日々日常の生活の中で我らの名を呼んで下さっています！顔と顔を合わせ、みなさん  
一人一人と話そう、深く交わろうと神の愛と恵みのうちに我らを招いて下さっています。

是非残りの12月、忙しくもなると思いますが、大切な最後の一か月を、祈りを大切に保ち、神の御前に出て、神様と出会い、  
今年今まで、一年中、心の中にあつたすべての傷や痛みが癒され、複雑な思いと混沌を吐き出し、クリアされ、癒されますよ  
うに切にお祈り申し上げます。今日モーセが神様と出会い、神様との関係の中で、40年間荒野で続けられているうちに残っ  
た酷い劣等感、自己喪失、自己不信、無気力、自己否定と自己卑下と自己憐憫などから脱ぎ捨てられ、本来神の子供、神  
の民、本来の神様の尊い存在らしく回復されたように、みなさんの自尊心が回復され、健康な自画像がキリストイエスにあっ  
て全て回復されますように切にお祈り申し上げます。

始まる今年最後の12月、主が我らの内側を強くし、新しくさせ、奮い立たせて下さって、全て神からの与えられた神の使命と  
責任を果たし、感謝がみちあふれる回復と逆転の12月となるクリスチャンプレイズの全神の家族となりますように主イエス  
キリストの御名によって祝福をお祈り致します！アーメン！

